

# 令和元年度「埼玉県学力・学習状況調査」結果の概要（報告）

令和元年10月

## 【調査の概要】

### ○調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで教育施設や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

○実施日 平成31年4月11日（木）

### ○実施学年・教科等

- ・中学校1年生 国語、数学、質問紙調査（学習意欲、学習方法及び学習習慣に関する事項）
- ・中学校2、3年生 国語、数学、英語、質問紙調査（ " " ）

## 【正答率等一覧】 中学校1年生

※ 表中の「レベル」や「学力の伸び」については、後述の「Q&A」をご参照ください。また、既に1学期末に生徒に返却してありますが、改めてご確認いただき、今後の家庭学習の改善にお役立てください。

(国語)	平均正答率	H.30 小6 レベル (平均)	R.1 中1 レベル (平均)	同集団における学力の伸び(平均)
埼玉県	63	7-B	8-C	2
狭山市	63	7-C	8-C	3
<b>山王中</b>	<b>64</b>	<b>—</b>	<b>8-C</b>	<b>—</b>
(数学)				
埼玉県	60	6-A	7-B	2
狭山市	61	6-A	7-A	3
<b>山王中</b>	<b>61</b>	<b>—</b>	<b>7-A</b>	<b>—</b>

## 中学校2年生

(国語)	平均正答率	H.30 中1 レベル (平均)	R.1 中2 レベル (平均)	同集団における学力の伸び(平均)
埼玉県	59	8-C	8-B	1
狭山市	60	7-A	8-B	2
<b>山王中</b>	<b>63</b>	<b>8-C</b>	<b>8-A</b>	<b>2</b>
(数学)				
埼玉県	60	7-B	8-C	2
狭山市	59	7-B	8-C	2
<b>山王中</b>	<b>58</b>	<b>7-A</b>	<b>8-C</b>	<b>1</b>
(英語)				
埼玉県	56	—	9-C	—
狭山市	57	—	9-C	—
<b>山王中</b>	<b>58</b>	<b>—</b>	<b>9-B</b>	<b>—</b>

## 中学校3年生

(国語)	平均正答率	H.30 中2 レベル (平均)	R.1 中3 レベル (平均)	同集団における学力の伸び(平均)
埼玉県	53	8-B	8-A	1
狭山市	53	8-B	8-A	1
<b>山王中</b>	<b>51</b>	<b>8-B</b>	<b>8-A</b>	<b>1</b>
(数学)				
埼玉県	58	7-A	8-B	2
狭山市	59	7-A	8-A	3
<b>山王中</b>	<b>54</b>	<b>7-A</b>	<b>8-C</b>	<b>1</b>

(英語)				
埼玉県	56	8-A	10-C	4
狭山市	57	8-A	10-C	4
<b>山王中</b>	<b>53</b>	<b>8-B</b>	<b>9-A</b>	<b>4</b>

【今後の対策】

○HPの「全国学力・学習状況調査」を参照してください。

【埼玉県学力・学習状況調査に関するQ&A】

Q1 従来の調査と県学力・学習状況調査はどちらがうのか？

A1 従来の調査は、学力を正答率で表すことが多く、正答率は、調査年度の子供の学力の現状を把握することには適していますが、実施年度が異なる調査の結果を比較しにくいという課題があります。そこで、県の調査は、問題の難易度を考慮に入れて学力を測定することにより、小学校4年生から中学校3年生まで、学力が伸びていく様子をより明確に示すことができるようになっています。

Q2 学力のレベルとは何ですか？

A2 本調査では、学力のレベルを「難しい問題を解く力」とし、レベルが上がるほど難しい問題を解く力があるととらえています。問題には、それぞれ難易度を設定しており、問題への解答状況で学力を測定しています。

例えば、小学校3年生の学習内容で、 $12 \times 6 = 72$ という「整数の掛け算」の問題より、小学校4年生の学習内容で、 $0.5 + 21.5 \times 6 = 129.5$ の「少数の掛け算と足し算が混じった問題」の方が難易度が高くなっています。このような難易度の問題を安定して正答すると、学力レベルも上がることになります。

<レベルとは>

平均値（能力パラメタ）を一定の閾値で分割し、表したもの。1～12レベルまで存在し、1つのレベルをさらに3分割（A, B, C）している・グラフで表すために、本帳票ではそれらを数値化している。

	レベル 12			レベル 11			レベル 10			レベル 9			レベル 8			レベル 7			レベル 6			レベル 5			レベル 4			レベル 3			レベル 2			レベル 1		
レベル	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	9	9	8	8	8	7	7	7	6	6	6	5	5	5	4	4	4	3	3	3	2	2	2	1	1	1
3分割	2	2	2	1	1	1	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
数値	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

Q3 「学力の伸び」とは何ですか？

A3 「学力の伸び」とは、昨年度と比較して、より難易度の高い問題に安定して正答できるようになったことを示しています。

Q4 同じ正答率の場合、同じ学力レベルになるのですか？

A4 同じにならない場合もあります。

県の問題は、正答率が高いか低いかではなく、難しい問題に正答できるほど、高いレベルとなります。例えば、同じ10問をAとBの子供が回答した場合に、Aが一番簡単な問題を1問間違えて、残りは全て正答し、Bが一番難しい問題を1問間違えたとします。この場合、正答率で考えると、AとBの学力はいずれも90%で同じということになりますが、本調査においては、より難しい問題に正答できているAの学力レベルの方が高くなります。

Q5 学力レベル7で考えた場合、小学校4年生の学力レベル7の児童と、中学校1年生の学力レベル7の生徒の学力は、同じと考えてよいのでしょうか？

A5 本調査の「学力のレベル」については、学力レベルが上がるほど難しい問題を解く力があると考えています。小4のレベル7と中1のレベル7では、正答できる問題の難易度は同じです。

ただし、小4の学力レベル7の児童が中1のレベル7の問題を解けるかという、解けない可能性が高いです。これは、学習指導要領により学習内容が定められているため、中1のレベル7の問題を小4の児童はまだ習っていないためです。

Q6 小学校4年生の学力レベル5だった児童が、小学校5年生でも去年と同じ学力レベル5の場合は、学力は伸びていないのですか？

A6 本調査では、この場合、新しいことを学び成長していますが、昨年度より難しい内容の問題を解く力は、まだ不足していると捉えています。

例えば、ある児童が4年生のときに、 $12 \times 6 = 72$ という「整数の掛け算」の問題を正答し、5年生の調査では、 $91 = 13$ という「整数の割り算」の問題を正答できたとします。この児童は「割り算」の割り方を学んだことにより、 $12 \times 6 = 72$ と同じくらいの難易度の問題に正答できたということになり、新しいことを学ぶことで成長しています。

しかし、更に難易度の高い設定の $0.5 + 21.5 \times 6 = 129.5$ という「少数の掛け算と足し算が混ざった」問題に、安定して正答することができなければ、レベルを上げるまでの学力が不足していることとなります。

Q7 正答数が0問だった場合は、レベルの表記はどうなりますか？また、全問正答した場合はどうなりますか？

A7 正答数が0問の場合は「学力のレベル」は表示されません。どのレベルに達しているか、測定できないためです。また、全問正答した場合は、該当学年で測定できる問題の範囲尾一番高いレベルの数字で、「あなたの学力はレベル〇以上になりました」と表記されます。

Q8 : 学年の中で、レベルの数値が1上がると、該当学年内でのレベル数値は低くても「大きな伸びが見られた」とコメントされていますが、なぜですか。

A8 本調査では、どの学力レベルの中でも、数値が伸びているのであれば、子供一人一人に伸びを実感させ、自信を持たせることが重要と考えています。そのため、昨年度の自分と比較して1レベル難易度の高い問題を解けるようになったことを「大きな伸び」と捉えてコメントしています。

Q9 中学2年生での学力レベルが5（中学2年生の中では一番低い学力レベル）の場合、学力レベル5より下の学力レベルにはつけられない状態になっています。この場合の学力レベルは、どのような基準でつけているのですか？

A9 中2の調査における学力の測定できる問題の範囲はレベル5からレベル11と設定しています。レベル5の問題に1問でも正答していれば、レベル5の学力がある可能性があるため、レベル5に位置づけられるようになっています。この場合、レベル5を明らかに下回るのは、正答率が0問の場合であり、その場合は、レベル自体も表示されないこととしています。

Q10 個人調査票は、絶対評価、相対評価どちらで示されているのですか？

A10 「今までの学力の変化」については、絶対的な位置を示しています。「県全体の正答率分布」については、県全体の中でどのくらいの位置にいるかがわかるように参考として記載しています。こちらは、子供の県全体における相対的な位置を示しています。